

令和6年 2月 15日

西部農林水産振興センター益田事務所農業部

標 題

農地の継承と地域の活性化に一翼を担おう！  
～農事組合法人翼の里うちだ設立～

(ダイジェスト)

令和6年2月11日に（農）翼の里うちだ創立総会が開催されました。当法人は益田市内田下地区をエリアとする集落営農法人で、圃場整備をきっかけに地区内の農地を守り、農業を通じて地域を活性化させる担い手として組織されました。設立後は、水稻だけでなく他の品目も作付けることで幅広い年代や女性が経営に関わり、地域ぐるみでの活動に期待がかかります。

益田市内田下地区では、農地耕作条件改善事業を活用して圃場整備を行っています。これまでは面積が小さな農地を個々で管理していましたが、圃場整備を契機に、区画整理された農地を効率的に利用していくための集落営農法人を新たに立ち上げることにしました。

当地区での集落営農検討は令和2年から始まり、およそ3年の年月を経てこのたびの法人設立に至りました。これまで、JA・市役所・農業部と計16回話し合い、紆余曲折がありながらも構成員、品目や機械等について焦らず丁寧に検討を重ねました。

その結果、構成員は地区内外の27名となり、従来から農作業していた方だけでなく、非農家の女性や地区の将来を担う若い世代も参加することになりました。また、農作業に慣れない方も気軽に事業に参加できるように、圃場整備外の畑を利用してまめ茶（カワラケツメイ）の作付も決まりました。

標題は法人スローガンでもあり、キーワードは“翼”です。これは地区内に所在している萩・石見空港が由来となっており、「地域に関わるみんながつろ～て（一緒になって）やって、法人ひいては地区が飛翔し発展していくように」という願いが込められています。

農業部では、この願いが実現するように水稻経営の安定化や経営多角化など、様々な視点から関係機関とともに支援していきます。

また、管内では他にも数地区で圃場整備が計画されています。条件が良くなった農地を効率的に利用していくため、今回の事例を参考にした集落営農の組織化・法人化を一層推進・支援していきます。



法人スローガンとイラスト  
(地区内の小学生が作成)

